

H30年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(慢性の痛み政策研究事業)
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
分担研究報告書

難治性疼痛及び慢性疼痛に対する学際的治療の多面的評価に関する研究

研究分担者 小杉 志都子 慶應義塾大学医学部麻酔学教室 専任講師

研究要旨

本邦の慢性痛治療における学際的治療の有効性は明らかになっていない。本研究は、他施設と協力して、難治性疼痛および慢性痛に対する学際的医療の介入効果を多面的に定量することも目的とした。

A．研究目的

慢性の難治性疼痛に対する学際的医療の有効性を明らかにするために、他施設（愛知医科大学、他）と協力して、難治性疼痛および慢性痛に対する学際的医療の介入効果を多面的に定量することを目的とした。

B．研究方法

選択基準：

慶應義塾大学病院麻酔科疼痛外来を受診した10歳以上の患者で、学際的な疼痛治療を行った患者。

方法：

従来の臨床診療で用いられている疼痛、健康関連の生活の質、心理面、日常生活動作に関する問診(brief pain inventory :BPI、Pain Disability Assessment Scale: PDAS、Hospital Anxiety and Depression Scale: HADS、Pain Catastrophizing Scale: PCS、Pain Self-Efficacy Questionnaire: PSEQ、EuroQol-5D:EQ-5D、アテネ不眠尺度、Zarit 介護負担尺度、医療保険点数、ロコモ25)について、初診時および初診3ヵ月後に施行された結果を比較検討する。
本研究は、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認を得ている。

C．研究結果

本研究は前向き縦断観察縦断研究であり、当施設では、データ収集中である。

D．考察

難治性慢性痛患者に対して身体および精神の両側面から介入により、早期の段階での疼痛および関連する心理の改善が期待される。一方で、学際的医療の非介入群との比較ができていないのが現状である。

E．結論

慢性の難治性疼痛に対する学際的医療の有効性を示すために、今後、前向き比較研究が必要である。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G．研究発表

本研究に関する発表はなし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

- 1.特許取得
なし
- 2.実用新案登録
なし
- 3.その他
なし